



竹原大佐を中心 國体研究座談會

昨夜平市マルトモ樓上にて 會せるもの約五十名

平市國体研究會は市長青沼裕太郎、警中校長淺水成吉郎、警女校長正木貞二郎、第一校長長藤山廣、警中聯合分會長藤田榮助諸氏の發起で昨十七日午後六時半から市内マルトモホールに於て催されたが出席者は市内少數の有志と警中警女商業教諭、各小學校職員約五十名、適々來平の本縣警隊區司令官竹原大佐の臨席を以て、同氏を中心として座談的に各自の考懐を交換されるに先き立ち一同伊勢神宮を遙拜後青沼市長から開辭があり藤田聯合分會長より陸大出身で國体的研究に造詣深き大佐を紹介され同大佐の挨拶終つて藤山第一校長懇談の進行に當り日本國体を研究するに如何なる著書によるを可とするや、

に對し赤城警女教諭、竹原大佐、正木警女校長等から其の研究を示され次へで、日本國体を認識得せしむる具体方法手段如何、の題に移り鈴木警女教諭、正木副校長、竹原大佐諸氏の語るところに相次いで平谷本社記者から楠木文學博士の著書による「國体の明徴はたゞに現今に於て緊要であるばかりでなく我等の子々孫々に至るまで永久に恒に緊要である而して万邦無比の我が國体を明徴にするには國史を回顧し殊に國史の源頭を明かにして國史の特殊性に對する我等の認識を正確にすることが其の基礎たるものである」と云ふに、

よりたきを説くところあり、現在の日本歴史の教育に於て國体に對する教育の着眼に就ては中島警中教諭から讀むべき數種の書を紹介されつゝ其の研究を發表、最後に於ける、

日支事變解決の大方針如何に對しては竹原大佐から大要を説くところあつた後本社半谷記者から新聞の報ずる所に於ては首都南京をすて、重慶に移つた國民政府は最後の根據地としたる同地を放棄して廣東、廣西に立籠ると云ふ現狀の様であるが戦争は大體見透しがつたものでせうか、と云ふに對し大佐から勝つと云ふことに間違ひはないと述べられ更に半谷氏は、

上海居留の實業家が語るものによつて、上海の形の上の損害は大體五千數百萬圓の經濟力を回復するに四五年はかかる、前回の上海事變に三千數百萬圓の損害を受けた、戦争に勝つても失敗が成功か今後に屬するとは一般識者に云はれる

日刊報日曜日誌
日休刊一ヶ月廿五號
本誌定額 一月四角
半年二元二角
一年四元
發行所 平市大町三三番地
電話 二二二番
郵便 平市大町三三番地
電話 二二二番

警察官の異動

横山久三の甘言に引込まれた警察官の異動は、

横山久三の甘言に引込まれた警察官の異動は、

出湯の街愈々復活か 豫定點に達して試錐

地下七百尺の温度攝五十二度 昨十六日からボーリング

出湯の街を蘇生すべく探湯斜坑を掘鑿中の石城郡湯本町は同斜坑の延長三百七十間で豫定の地上直下七百尺以上の地點に達し推測通りの泉點を想像出来る五十一度から五十二度の地下温度を見て數日前四五立方ほどの熱湯湧出を歓迎する喜びに昨十六日から斜坑の掘進を中止し切詰より縦横に向けるボーリングを試みてゐるが少なくとも三十立方の湧量を得る泉源にこれが當れば占めたもので今月一杯で結果を確め得やうと云はれてゐる

遺言献金五圓

田町の中島氏

平市市田町中島義男氏は亡父の遺志により、

無名婦人から 金十圓

出征家族慰問に

平市役所へ昨十七日無名氏からの手紙に金十圓を添えて窓口には水蒸気した奇文字がある書翰は水蒸気した奇文字で出征家族に同情の旨を語り少

戦地 一死報國の念のみ

石城郡大出出身 吉田 榮

祖國を後に渡渡幾百里を越えて廣漠たる北支大陸を東奔西走、幸ひ元氣旺盛にて全く文字通りの活躍を續け東洋平和樹立の重大使命を果すべく及ばずながら微力を盡し來たり得まして現在地なる北支南方の地點山東省〇〇の陣中より昭和十三年の新春を御喜び申上ぐる

總務部長の視察

眞崎本縣總務部長は去る十六日石城に來郡昨十七日は大浦村及び四倉町警署を視察し平市住吉屋本店に泊り十八日は同郡下經濟更生指定村その他を視察す

酉小屋から喧嘩

石城郡赤井村の日曹榮藏坑夫小泉義夫(三)と同坑夫石塚市太郎(三)は去る十四日供達の建てた酉小屋のことから同村赤井字畑子澤地内で喧嘩を初め小泉は探炭用の鶴嘴をもつて石塚の左腕に全治三週間の刺傷を與へ平署に檢査されて目下取調中である

曲乗窃盜

現金と附屬品

自稱東京市淺草區光月町一六〇一〇の曲乗サカサカ鈴木利男(三)は去る十日郡山市字大町洋品店マルチヤ方オートバイ修繕に雇はれて來たが旅費にも困り小遣を貸してくれと云はれた同市字幣町八二

北支中支を視察して

代議士 星 一

が安いで、勝つた日本の紙幣が負けた支那の紙幣よりも安いと云ふことが、支那人に長期抵抗をなさしむる原因の一にもなると思ふて、其理由を或人に尋ねた

簡易保險事業

國民精神總動員

過般通信省では國民精神總動員による消費節約運動を強化して非常時財政經濟政策に協力する趣旨の下に「簡易保險郵便年金報國運動」を起し、各種の施設方法を講じて全國民に向つて呼びかけることとなつたが、この運動は詢に機宜を得た措置であつて、時節柄國民の共鳴を得ることゝ察

せられる、國民はこの際、簡易保險事業に對する認識を新たにして、この意義深き運動に協力すべきだと思ふ。

國民生活の安定向上を旨とする簡易保險事業が、創始以來飛躍的發展を遂げつゝあることは周知の事實であるが、なほこれを事實に就て見るに最近の簡易保險の契約高は、件數二千八百餘萬件、保險金額四十二億圓に達し、昨年の新契約件數は三百四十四萬三千八百餘件の多數になつてゐる、又郵便年金の最近の業績は、件數三十八萬九千餘件、年金額三千二百萬圓であつて、昨年中の新契約件數は三萬三千九百餘件に達してゐるのである。

出征軍人實父の 行方不明

新潟縣南蒲原郡加茂町神明町日業業吉澤平次郎(三)は昨年十月無断行方不明となつたが同人の不在中相續人である吉澤清四郎が支那事變の爲め昨年秋應召一氣不在で居り萬一戦死の場合遺族給與金等の處置に困るからと今十八日隣家から搜索方を願出た

雲州神國印ソロバン 櫻橋印高級ソロバン ウエル 萬年筆

ライティンキ
ムツリニペン
玉泉堂の書道筆
古梅園の書道墨

文魁文堂

電話 三三三

然し、密接な、不可分な關係ではあるが、金融の技術が其使命を制するものである資本の金融化、資金の金融化、資産の金融化、金融の資本化、金融の資金化、金融の資産化がある筈だ。

高橋商店
電話 三三三

産業方面 高冷地帯の 稲苗育成(下)

俣成に被覆法

大塚右の通りで被覆試験田と普通田(隣接の被覆せざる水田)との比較を示せば次の如くである、
括弧内はすべて普通田である。

▲苗代期品種陸羽百三十二號(同)

▲播種四月二十三日(同)

▲播種當時の水温(三度)(同)

▲同上五日目の水温(七度五分)(十六度七分)

▲播種十日目の草丈(八分(六分))

▲二十日目の草丈(一寸七分(一寸五分))

▲三十日目の草丈(二寸三分(二寸))

▲同葉數九枚(四枚)

▲同水温(二十度)(十九度)

▲本田生育並に収量、播種期六月十六日(六月十五日)

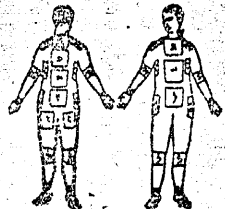
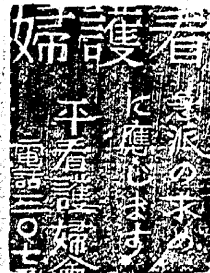
▲出穂八月十五日(八月二十三日)

▲成熟期九月二十日(九月二十五日)

▲反當收量二石八斗(二石五斗) 試験田は雄勝郡田代村である。

右被覆苗代施設指導主任の秋田縣農務課佐藤技手は稲の第一年目の成績としては意外の好結果でせう、被覆苗代で育成した苗は普通苗よりは遙かに成績が進み、挿穂を前に五日は早めることが出来ます、従つて出穂も早く成熟期に於ても四日位は早められるから秋冷が幾分早く来ても冷害を蒙ることが少ない譯である、しか

して収量も普通田より平均反當二斗二升の増収を示してゐるから山間高冷地帯の水稲栽培には此の方法が最もよいと考へられるので本年も引續き試験を行いますと、(完り)



山野邊藥局
平市 五丁目角

山崎製菓株式会社
山崎製菓株式会社は、昭和十一年に創業し、以来、各界の愛顧を蒙り、今日に至るまで、品質の向上と味の改良を怠らぬ努力を続けて参上しております。
山崎製菓株式会社は、各界の愛顧を蒙り、今日に至るまで、品質の向上と味の改良を怠らぬ努力を続けて参上しております。

品名	定額	品名	定額
カレー	五円	カツ	五円
ステーキ	五円	ハンバーグ	五円
焼肉	五円	ラーメン	五円
うどん	五円	そば	五円
雑煮	五円	汁粉	五円
天ぷら	五円	お寿司	五円
刺身	五円	お好み焼	五円
おでん	五円	焼きそば	五円
揚げそば	五円	焼きうどん	五円
揚げうどん	五円	揚げそば	五円

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ 平市 電話 二二三

専門 皮膚科 泌尿器科 性病科
診療時間 午前八時より 午後九時まで
江尻伊三郎 院醫
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 **五十嵐雄二**
平市新川町「電話三六九番」

店商屋釜
九九・九電

「看護見習募集」
明雲堂眼科醫院(電話六六九)
平田町(三丁目裏川岸通)
入院應需(自炊の便あり)

便利で 経済な **日下家政婦會**の 派出婦を御利用 下さいませ
身元確かで品行方正ですから 何をお任せしてもご安心です
平市田町十八(西村屋横町)
電話 七二三番

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
院長 醫學士 高久忠

銀串 豚カツ 牛鳥
珍味御試食願上ます
チンヤ式食堂
静かなお座敷
平市三田小路。電一六七

平病院 (平市元共濟病院跡) 電話六四一番
院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 院長 鈴木定藏
小兒科 部長 高橋俊幸
皮膚泌尿科 部長 佐藤幾安司
物理療法科 部長 鈴木定藏
薬劑科 部長 古川元雄
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此の限にあらず)

産科 婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
薬局 藥劑師 大岩俊雄
平市新川町九一
木村病院
入院隨意 病室完備
電話一六〇番